

## 木造阿弥陀如来立像(超願寺) 1 軀

### 木造阿弥陀如来立像

もくぞうあみだによらいりゅうぞう

### 分野／部門

有形文化財／美術工芸品[彫刻]

### 所有者

宗教法人 超願寺(ちょうがんじ)

### 所在地

大阪市浪速区元町 1

### 紹介

法量：像高 77.2cm



来迎印を結ぶ阿弥陀如来立像で、快慶の作風を踏まえた安阿弥陀様(あんなみよう)の作例である。寄木造の玉眼像で、肉身部、衣部ともに漆箔をほどこす。

低い肉髻(につけい)、面長で目尻の上がった意志的な表情、衣摺(きぬずれ)を細かくあらわした動きのある衣文(えもん)は、鎌倉時代の特色を示す。鋭い彫り口や写実的な表現から、13世紀中頃の制作と考えられる。

足ホゾに鉄棒を用い、足裏にも漆箔をほどこすという、後の齒吹阿弥陀(はぶきあみだ)に通じる構造を示す。

保存状態は良好である。

### 用語解説

**玉眼(ぎょくがん)** 木彫像において、眼の内部をくり抜き眼球状の水晶を嵌め込んだものを玉眼と呼ぶ。これに対し、眼を彫り出してあらわしたものを彫眼と呼ぶ